

2024年5月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回6月のてがたんは6月8日(土)で、テーマは「植物のなかま探し」です。ぜひご参加ください。6月1日(土)の8時30分から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は6月2日(日)です。

## 5月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼ふれあいライン→市民農園→けやき広場
- 観察日時と天気：2024年5月11日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 参加人数：13名(大人12名、子ども1名)
- 市民スタッフ：7名(伴野茂樹、石原直子、伊東茂子、北村章子、小泉伸夫、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(望月みずき)

## 観察した生き物の記録

【\*】は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】キジ科：キジ/カモ科：カルガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/クイナ科：オオバン/タカ科：トビ/キツツキ科：コゲラ/ハヤブサ科：チョウゲンボウ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/メジロ科：メジロ/ヨシキリ科：オオヨシキリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ 家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)/ドバト(ハト科)

【爬虫類】カナヘビ、アオダイショウ 【両生類】ニホンアマガエル、ヌマガエル

【昆虫】トンボ目：アオモンイトトンボ、シオカラトンボ/バッタ目：ヒメギス、ヤブキリ、ヒシバッタの仲間/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、ウズラカメムシ、カイガラムシの仲間/チョウ目：オオミノガ、ルリシジミ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモン、アカボシゴマダラ、アオスジアゲハ、クロアゲハ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、モンキチョウ、キタキチョウ、モンシロチョウ/ハエ目：アメリカミズアブ/コウチュウ目：アカホシテントウ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、セボシジョウカイ、クロウリハムシ、クロボシツツハムシ、コガタルリハムシ/ハチ目：ハグロハバチ、ニホンミツバチ、キムネクマバチ、コハナバチ

【クモ類】ジョロウグモ、オニグモ、コガネグモ、カニグモ、コマチグモの仲間

【陸産貝類】ウスカワマイマイ、オナジマイマイ、ミスジマイマイ\*

【草の花】タデ科：スイバ、ヒメスイバ、アレチギシギシ、ギシギシ/ナデシコ科：ノミノツヅリ、ツメクサ/キンポウゲ科：ケキツネノボタン/ケシ科：ナガミヒナゲシ/アブラナ科：セイヨウカラシナ、マメグンバイナズナ/バラ科：ヘビイチゴ、オヘビイチゴ/マメ科：ゲンゲ、コメツブウマゴヤシ、コメツブツメクサ、シロツメクサ/カタバミ科：カタバミ、アカカタバミ、オッタチカタバミ/フウロソウ科：アメリカフウロ/アカバナ科：コマツヨイグサ、ユウゲショウ/セリ科：オヤブジラミ/ヒルガオ科：ヒルガオ/ムラサキ科：キュウリグサ/シソ科：ホトケノザ/ゴマノハグサ科：ムラサキサギゴケ、トキワハゼ、オオイヌノフグリ/ハマウツボ科：ヤセウツボ/オオバコ科：ヘラオオバコ、ツボミオオバコ/キク科：ハルジオン、ハハコグサ、チチコグサモドキ、ウラジロチチコグサ、キツネアザミ、ブタナ、オオジシバリ、オニノゲシ、ノゲシ/ユリ科：ノビル/アヤメ科：キショウブ、ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、チリアヤメ/イグサ科：スズメノヤリ/イネ科：スズメノテッポウ、コバンソウ、ヒメコバンソウ、ノゲイヌムギ、チガヤ、ネズミムギ、ヌカキビ、スズメノヒエ、シバの仲間

【木の花】ブナ科：スダジイ/クスノキ科：クスノキ/バラ科：シャリンバイ、ノイバラ、ナワシロイチゴ/マメ科：ハリエンジュ/スイカズラ科：スイカズラ/ミカン科：ナツミカン/タマタビ科：キウイフルーツ(植栽)/ツツジ科：ツツジの仲間

# 5月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「ツバメの子育て」でした。初めに伴野さんより博物館友の会のツバメの巣調査について、過去の結果も交えてお話しいただきました。その後手賀沼ふれあいラインを歩きながら季節の生きものを観察し、市民農園ではツバメが営巣する様子の観察を行いました。



今月の案内人  
望月みずき・伴野茂樹



①ハグロハバチの幼虫。体の側面に黒い斑点があるのが特徴。



②近くを飛んだトビ。風切羽を換羽中。



③ナミアゲハ幼虫。若齢幼虫は茶色と白の模様で鳥の糞への擬態と言われている。



④市民農園のトイレに作られたツバメの巣。親鳥が巣に座り抱卵中。



歩いたルートと観察した生き物



⑤オオミノガ幼虫。桜の木の幹の上を歩いているところを観察した。



⑥ヤナギの綿毛。綿毛には種がついていて、風で種を遠くまで飛ばす。



⑦手賀沼遊歩道沿いにいたコブハクチョウ。



⑧チリアヤメの花。

## 今月の鳥 ツバメ (スズメ目ツバメ科)

ツバメは日本全国に広く夏鳥としてやってくる鳥で、我孫子では3月から9月頃まで見られます。民家の軒先などに泥と枯草を使った巣を作り、4~7卵を雌雄で交代しながら約2週間抱卵します。雛がふ化すると親鳥はハエやチョウ、トンボなどの昆虫を雛に与えて育てます。雛はふ化してから約20日で巣立ち、ヨシ原などで過ごすようになります。ツバメが子育てをするには、巣を作る人家、巣材を集める田んぼや湿地、餌を集める水辺環境などがバランス良くあることが重要です。

今年は鳥の博物館友の会がツバメの巣調査をしていますので、巣を見かけたら博物館までお知らせください。



若いツバメ。成鳥と比べて、喉や額の赤色が薄く、尾羽も短い。